

第4回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成22年9月17日(金) 18時30分～20時30分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

(1) 委 員 20名

*欠席 小池副会長 谷野委員

(2) 事務局(教育委員会教育総務部企画課)

高須課長、戎谷主幹、古館主幹、伊藤課長補佐、山崎主査補、安井主査補

(3) 傍聴者 12名

4 議題

(1) 前回協議会で出された意見についての整理

(2) 将来推計とシミュレーション

(3) 次回開催日時・場所

5 会議資料

(1) 第3回協議会の論点整理

(2) 千城台地区における4kmの範囲、モノレール駅から1km内の開発について

(3) 千城台地区の児童生徒数および学級数の将来推計

(4) 千城台地区のシミュレーション

6 議事の概要

(1) 前回協議会で出された意見についての整理

「第3回協議会の論点整理」の資料をもとに、適正規模、学校の配置についての協議題を中心に事務局より説明があり、質疑応答を行った。

(2) 将来推計とシミュレーションについて

「千城台地区の児童生徒数および学級数の将来推計」および「千城台地区のシミュレーション」の資料をもとに、事務局より説明があり、質疑応答を行った。

(3) 次回開催日時・場所

次回協議会は、平成22年11月26日(金)18時30分から20時30分、千城台公民館にて開催することとした。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶(安部会長)

猛暑続きの中、お集まりいただき、感謝したい。今回、第4回目が迎えられた。前回は活発な意見が出され、大変有意義な協議会となったが、本日の協議会でも活発な意見が交わされると思われる。

また、「千城台教育を考える会」から、前回協議会の際に「第3回地元代表協議会地元代表へのお願い」と、そして今回「第4回地元代表協議会地元代表へのお願い」が出され、本日委員の皆様にお配りした。この件については、後ほど時間をとるので、協議していただきたい。

この地元代表協議会で出されたデータや協議内容は公開されているが、十分注意して取り扱っていただき、資料等が独り歩きすることがないようにお願いしたい。今後も、地元代表協議会の中で活発な意見が出されると思うが、協議内容はオープンなるということを踏まえて、各自がよく吟味し咀嚼して発言し、進めていきたいと考える。

新聞等で「35人学級編制」についての方向性が文部科学省から出されたが、頭の片すみに入れておいていただき、本日も忌憚のないご意見をお願いしたい。

(2) 「千城台教育を考える会」から出された内容について

〈菅原議長〉

それでは、議題に入る前に、前回そして今回と「千城台教育を考える会」から出された内容について、ご意見がある方はお願いしたい。

〈三浦委員〉

「千城台教育を考える会」の組織について、人数はどのくらいなのか。

〈事務局〉

教育委員会の企画課に来られた方は2名。組織の規模等は、把握していない。適正配置についての意見ということで、委員の方々に配布していただきたいと依頼があった。

〈三浦委員〉

個人の意見として出されたのか、組織の意見として出されたのかが知りたい。

〈菅原議長〉

組織から出されたと思うが、実態はわからない。

〈高野委員〉

「千城台教育を考える会」の前回出された内容の中で、通学距離について触れているが、地元代表協議会の中では、小学校の通学距離は4km以内としている。千城台地区の統合を考えていく観点として、通学距離については第一に考えていただきたい。

(3) 議題

議題(1) 前回協議会で出された意見についての整理

事務局 会議資料：「第3回協議会の論点整理」を説明。補足として、資料「千城台地区における4kmの範囲、モノレール駅から1km内の開発について」を補足説明。

〈菅原議長〉

事務局より説明があった通り、今後の協議会の協議題に関わる部分である。質問・意見ををお願いしたい。まず、保護者説明会を実施した千城台東小学校から、その時の状況についてお話いただきたい。

〈佐々木委員〉

東小では、前回協議会の後、保護者向けの説明会を2回(午前の部9名、午後の部6名)実施した。第3回地元代表協議会の資料を配布し、説明した。その時に出された保護者からの意見について、箇条書きにまとめたものを口頭で紹介する。

- ・各町内（千城台東1丁目等）から、それぞれの学校までの距離と通学する生徒数のデータを出していただき、通学距離からの視点で子どもたちへの負担が少ない学校を知りたい。
- ・特別支援学級についての検討がなされていないようだが、通学の便利性或学級規模が大きい等の理由から、学区外通学している児童もいらっしゃるのではないかと。特別支援学級のお子さんについて、もっと考えて欲しい。
- ・東小から西中に進学する生徒は学区が異なるため、小学校時代に西中学区との交流がない。適正配置について検討がなされているなら尚更、南中学区育成委員会と西中学区育成委員会が、千城台地区全体の育成委員会として動いていただけないか。
- ・今回の資料に記載されている花島小学校の実態をみると、メリットの方が多いようだ。花島小学校前の経緯を知り、意見交換に生かしたい。
- ・統合による子どもたちに対しての協議だけでなく、親同士の理解・親睦も重要だ。統合問題をきっかけに、5小2中の保護者でこういった会を行ってみてはどうか。
- ・南小の単学級の実態を友人から聞き、自分が当事者だったと思うと不安になった。東小は現在2～3学級あってよかったという意識ではなく、自分の子どもが単学級に在籍していたらどうかと各家庭で考えていく必要があるのではないかと。
- ・運動会やバザーの開催日は、南中学校区では同一である場合が多いため、他校へ行くチャンスがない。西中・北小・西小は合同で行事を行うことも多いらしい。小学校同士、地域との交流の機会を設けていただき、もっと学校同士で子どもも保護者も仲良くしていきたい。
- ・母校が無くなったら悲しいと意見されている方たちに、地域協力者としてもっと母校に協力して欲しいと思う。
- ・小規模校の実態をもっと単学級の保護者に語って欲しい。
- ・旭小は、統合の話し合いを拒否しているというが、如何なものか。
- ・統合をおこなう場合、校舎のリニューアルだけでなく、通学路の整備もあわせて行って欲しい。
- ・統合についての反対意見を、児童・保護者・地域のそれぞれの視点から、具体的に挙げて欲しい。
- ・統合後の新設校は、学校名、校歌、制服も新しくして、例えば〇小が残り〇小が無くなったという意識をなるべく持ちにくいような配慮をしたほうがよいのではないかと。
- ・もっと協議が進んでいるのかとと思っていた。

〈菅原議長〉

千城台東小学校の意見の中に、特別支援学級についてもっと考えてほしいとあった。示されているデータの中に特別支援学級の児童生徒数が入っていないということからの意見とも受け取れるが、事務局いかがか。

〈事務局〉

推計資料の中で、「特別支援学級は除く」というのは、特別支援学級は学級編制の基準自体が通常学級の編制とは異なるためである。千城台地区の特別支援学級の状況であるが、5月1日現在で、千城台西中学校は33名、千城台北小学校は78名〔通級学級（言語）は39名〕である。詳しい資料については、次回提示したい。千葉市の特別支援学級の考え方では、2～4中学校区を1つのエリアとして、その中に50%の設置を目標としている（エリア方式）。なるべく居住地、その近くで必要な教育ができるように考えている。現在、設置されている特別支援学級は、小学校61

校、中学校28校である。

若葉区は設置率が一番低い。特別支援学級が設置されている小学校は現在4校、中学校と併せても20%程度となっている。今までは、拠点校的に集まってくる傾向にあったが、地域で同じ子どもたちと同じ学校で育てていきたいという考え方と通学負担を軽減させていくという考え方から、設置校は広げていく方向で進む方針である。

推計上、特別支援学級を含めない、もう1つの理由として、学区外通学が挙げられる。千城台北小学校では、29名（通級学級39名の75%）が千城台地区以外から通学している状況である。

交流・連携について、幼稚園・保育所・小学校・中学校など、それぞれの施設・学校種間の交流は、行事をはじめいろいろな面で行われていくことが大切であり、これからも認識して進めていきたいと考える。

〈高野委員〉

千城台北小の運営委員会の中で、話し合いを行った。その中で、特別支援学級の保護者の方から、北小がモノレールの駅に近いという理由から選んで通学させているので、それ以外の学校となると不便であるという意見があった。また、特別支援学校に子どもを通わせていた保護者からは、途中で学校がなくなってしまった経験があり、6年間を見通して通わせているので、途中で学校をかえることは大変であるという意見もあった。

〈土屋委員〉

特別支援学級の子どもたちに限らず、学校を移動することは大変大きなことである。すぐに環境になじめる子もいるが、苦手な子もいる。校舎だけではなく、教員、通学路などいろいろな環境の変化に対応することは、小さい子どもたちにとっては大変であると思う。

〈佐々木委員〉

千城台東小学校の学区は、西中学校区と南中学校区に分かれているが、なぜ一緒にできないのかと思う。南中の活動には参加しているが、ある保護者が西中にも出たいと言ったらPTAの負担になるから難しいとなったこともあった。ラパークで、西中の生徒がいた時、南中学校区育成委員会は管轄が違うので補導できないとも聞いている。協力して活動することはできないか。

〈大澤委員〉

育成委員会は、中学校区ごとに補助金をいただいて活動している。西中学校区育成委員会は、南中学校区育成委員会と合同で活動をしたこともあったが、時間等の調整がうまくいかず、継続ができなかったようである。合同で活動しようと思えば、できないこともないと思うが。

〈佐々木委員〉

千城台東小は2つの育成委員会に関わっている。子ども110番に関する件で、西中に聞いたところ、育成委員会が違うので教えられないと言われたことがあった。結局、学校から警察に聞いてもらって解決できたが、育成委員会同士が情報を共有できていないのが残念である。また、千城台東小は、統合に賛成する保護者も多く、地元代表協議会での統合に向かっての話し合いがあまり進んでいないと感じている。お母さんたちが集まって話し合った方が、統合が速く進むのではという意見もある。

〈大澤委員〉

統合の問題は、学校関係者だけではなく、自治会や育成委員会も絡んでくるので、地域とのつながりが大切であり、一緒に協議していくことが必要である。

〈菅原議長〉

どちらの育成委員会も活動している行事はほとんど変わらない。その中でも、キャンプは子どもたちが多く参加している行事である。西中学校区育成委員会では、20年も続けている。南中学校区の育成委員会でも、1泊2日で行っているようである。どちらも参加人数や時間的な調整が難しく合同で行っていない。今後、育成委員会としても交流を広げていければと考える。

〈事務局〉

これまでの意見交換の中で、適正配置について具体的に考えていく際の、いくつかの大切な視点があがってきていると考える。

1つ目は、学区に関すること(千城台東小の卒業生は2つの中学校へ進むこととなっていること)、2つ目は地域とのかかわり、3つ目は学校の配置、4つ目は学校規模。このような協議題について、資料の提示等の要望があれば、次回以降、示していきたいと考える。

議題(2) 将来推計とシミュレーションについて

事務局 会議資料：「千城台地区の児童生徒数および学級数の将来推計」および「千城台地区のシミュレーション」を説明

〈菅原議長〉

このシミュレーションは、適正配置について、「配置(場所)」ということは考えずに「規模」という視点から考えていく場合の1つのたたき台である。質問、意見があればお願いしたい。

〈加瀬委員〉

方向性が決まらないと、ぴんとこない。(何とも言えない。)適正配置をするという方向で進めていることでよろしいか。

〈菅原議長〉

その方向で話し合っている。

〈加瀬委員〉

小学校5校については、ある程度の適正規模化が必要と考える。中学校については、いろいろ考えると2校存続がよいであろう。

〈三浦委員〉

次の2点についてお聞きしたい。

- ① 35人学級編制について新聞等に出ている。資料を見ると35人学級編制でも影響がほとんどないと考えられるが、今回の資料は40人学級編制で作成されたものか確認したい。千葉市学校適正配置実施方針については、変更はあるか。
- ② 統合した場合、経済的にどれだけメリットがあるのか。小学校5校を2校にした場合の経済的メリットはどうか。国と県と千葉市の負担の比率はどうか。

〈事務局〉

① について、今回のシミュレーションは40人学級編制で作成している。千葉市学校適正配置実施方針については、平成19年に作成し、これをもとに適正配置を進めている。現在、内容を変更する予定はない。

② については、統合校の施設状況、改修規模等、いろいろな条件が関わってくるので、一概には言えないが、花島小の例について紹介したい。統合前の花見川第四小学校は8学級、花見川第五小学校は6学級、統合校である花島小学校は12学級となった。統合に伴う教員の減

少や学校運営に係る経費等から算出した市費負担削減額は約2750万円である。

国と県と千葉市の負担比率については、教員について説明すると、県費負担教員と市費負担教員がいるが、県費負担教員は、国が1/3、県が2/3の負担をしている。市費負担教員は用務員や調理員などの非常勤職員のことである。この市費負担教員などの人件費を除いた学校運営費は、6学級規模の場合、900万円程度となる。市費負担としては、人件費の割合が多いといえる。

〈三浦委員〉

千城台地区の適正配置では、中学校2校を1校にする根拠は何か。統合するにあたっての経済的効果もそれほどないと考えると、中学校を現状のまま残し、9学級でいく方がよいと考える。小学校については5校もあるので、現状を考えると統合を進めていった方がよいと思う。

〈事務局〉

中学校の場合は、教員の免許制にも関わるが、小規模校のままだと、すべての教科にその教科の免許を持った教員がつくことが難しくなる。また、部活動については、部活動数も限られ、担当教員も複数でつくことができなくなる。経費の問題ではなく、教育環境は良いとはいえない状況になってしまう可能性がある。

〈鶴岡委員〉

どちらの中学校も、28年度には各学年3学級となり全体で9学級となるが、そのまま2校を残していく中で、交流しながら切磋琢磨することもできるであろう。部活動の指導については、地域に協力をお願いして、指導者の確保もできる。小規模校であると、教員1人が複数の教科を担当するということもあり、教育委員会にもお願いし、加配教員等対応していければと考える。

〈菅原議長〉

ここで「少人数の良さ」について、改めて各学校の現状をお話していただきたい。千城台南小学校からお願いしたい。

〈岩澤委員〉

千城台南小学校は、ずっと1学級で行われてきている。保護者の意見として、少人数のままで良いという意見とクラス替えはあった方が良いという意見が出ている。人数が増えると、友だち同士のトラブルが増えるのではという心配も出ている。

〈葛城委員〉

千城台旭小学校では、現状のままで良いという意見が多い。

〈山崎委員〉

千城台南中では、そろそろ統合を進めていかなければいけないと本部役員に説明し、統合の組み合わせについて話し合った。通学距離や学校規模等から、統合しにくい組み合わせは除いていく消去法で考えてみた。あくまでも1つの案であるが、千城台北小学校と千城台西小学校、千城台南小学校と千城台旭小学校、千城台東小学校は現状のままの3つにする。中学校については、現状のまま2つ残す。また、前に千城台南小学校のPTA会長を4年間していたが、運動会などは早く終わってしまい、盛り上がらなかった。やはり、統合を進めていくことが必要であると考えている。

〈大澤委員〉

千城台地区は、東西南北の4つの町内に分けることができるが、それぞれの町内に1校残すという案はどうか。小・中学校どちらでも良いので、各町内に1校残し、地域とのかかわりや活性化を図る。

〈佐々木委員〉

子どもたちがどこの地域から通学しているのか、各学校の通学範囲についてはわからないので、どこを残し、どこを統合するのかわかっている。東小が単独で残った場合は、また中学校区を半分に分けることになる。

〈石原委員〉

千城台東中学校を作ってみてはどうか。小学校を中学校にして、中学校を小学校にすることも考えられる。

〈醍醐委員〉

自治会の代表として、この地元代表協議会に参加しているが、現在の学校の様子がよくわからない。自治会と学校との交流はほとんど行われていないので、機会があれば千城台旭小学校の保護者との話し合いの場をもってもらえるとよいが、いかがか。

〈葛城委員〉

自治会と学校との連携がもてればと思うので、持ち帰って保護者役員と相談したい。

〈大和久委員〉

千城台西小学校のPTA会長になり、地元代表協議会に参加しているが、こんなに自治会の方々と話し合いが大切だとは思わなかった。また、実際に保護者の方々は地域の方々と話し合う機会をもつことは少なく、地域の方々に子どもたちを育てていただいていると考えている人も少ないのではと考える。このように、地域とのコミュニケーションがとれていない方々が集まってきて、統合の話し合いの中で遠慮気味に話し合っても、決め手になる意見を（私自身も含めて）出すことができないと思う。このままでは強いリーダーシップをとった方の意見に流されてしまう危険性があるのではと思う。それであれば千葉市教育委員会から、強く方向性を打ち出してもらい、それに沿って進めた方が理解しやすくスムーズにいくと考える。

〈安部会長〉

地区自治会連絡協議会では、37自治会の代表が、2・3カ月に1度集まって協議を行っている。いろいろな問題点が出てくるが、その都度、千葉市や若葉区に報告している。そのような中、この適正配置の話があって、ちょうど良かったと考えている。横のつながりができる良い機会となった。先ほどの意見は率直であると思うが、この地元代表協議会では強いリーダーシップをとっていくことはなくてよい。委員一人一人が平等な立場でお願いしたい。

〈酒井委員〉

1町1校という意見もあったが、戸建住宅が多い地域、集合住宅が多い地域といろいろあったりまたこれ以上の発展もないだろうという考えなどを含めて、もっと現実的に市の都市計画や開発計画に基づいて、他部局との交渉も含めて、教育環境を考えていければと思う。

〈櫻田委員〉

将来推計をみると、小学校に関して統合は止むを得ないと考える。統合賛成という立場で進んできたと思うが、まだ堂々巡りになってきていると感じる。当初話をした時にも、千葉市教育委員会の基本的な姿勢として、①子どもたちの集団活動を旺盛に行う、②学校運営と指導体制を確立したい、③地域の特性を十分に考えてもらいたい、という3つの姿勢からスタートしている。あまり早くシミュレーションを作ってしまうと、デメリットが出てきてしまうこともあるので、じっくりやっていきたいと考える。

〈秋葉委員〉

24地区連がもう少し力をもってやって欲しい。千城台地区の学校の配置を決める際に、千葉市から話があり、協議の結果、現在の学校体制も決まったという経緯がある。当初、西中学区24地区連だったが、後に南中ができ、中学校2校になったが、地区連は1つのままである。また、体育館を使っている団体が大変多い。統合し学校数を減らしたら、どこで活動するのか心配である。そこも良く考えて、話し合っていたきたい。中学校の部活動では、夏の総体が終わると、新人戦に向けて1・2年が活動していくときに、集団スポーツ等の人数が足りなくなる。また小規模校だと、教員の数も少なく、部活数も限られてしまう。こういうことも考えて、中学校の統合も考えていただきたい。

〈村田委員〉

28年度までの人口統計を見てみると、どんどん減っていく中で統合されていくと、千城台の町がどうなってしまうのかと心配である。もう少し、各学校から統合の要望が出てから、考えていけば良いかと考える。

〈中村委員〉

地域に住む方々が高齢化してきているが、地域住民をもっと利用していただき、より良い教育環境を一緒に築いていきたいと考える。

〈高野委員〉

5小学校から2小学校への統合シミュレーションについて、出していただきたい。

〈事務局〉

規模ということで、各町内で1つを残す案や、配置の問題など、貴重な意見も出てきた。

これからも、どういう観点で千城台地区を考えていけばよいのかを踏まえながら、進めていただきたいと考える。

議題（3）次回開催日時・場所について

〈菅原議長〉

次の議題「次回開催日時・場所」に入りたい。

〈事務局〉

本日、次回の開催日時を決定し、各組織に連絡をしていただきたい。おおむね2ヶ月に1度のペースで開催する旨、了承を得ているので、次回11月となる。11月26日（金）18時30分から、場所はここ「千城台公民館」でいかがか。

*「異議なし」（了承）

（4）連絡

○本日の議事要旨については、案を作成し、委員の方々に確認していただく。期日までに速やかに回答をお願いしたい。回答がない場合は、修正なしとさせていただきます。委員の確認終了後、修正した議事要旨を教育委員会のホームページ上で公開するがよろしいか。

*「よろしい。」（了承）

○「千城台教育を考える会」について本日、協議を行ったが、次回より他の団体等からも資料配布等の要望があったら、各委員に配布したり送付したりしてよろしいか。

*「よろしい」（了承）

- 開催通知は、委員の方々には前もって送付する。欠席の場合は早めに事務局まで連絡をお願いしたい。なお、代理出席もよいので、ご検討願いたい。次回からの開催日時等について、各学校の保護者への周知はホームページ上で行う。
- 委員の方々には、次回の開催日時・今日の協議内容等について、各組織の方々にもお知らせいただきたい。（次回も傍聴できる。）

(5) 会長挨拶（安部会長）

冒頭にも述べたが「千城台教育を考える会」から「お願い」が出された。大変よいことではあるが、協議会ではいろいろな意見を出し合い自由に活発に話し合いをしている故に、協議内容が適切に捉えられていない部分があったかと思われる。

本日は各委員からいろいろな意見が出て、大変有意義な協議会となった。長時間にわたり、おつかれさまでした。